

《資料》

大学生による保健の模擬授業において よい授業と関連する要因

杉崎 弘周¹⁾、長岡 知²⁾、物部 博文³⁾、植田 誠治⁴⁾

キーワード：保健授業、教員養成、自由記述

I はじめに

保健の模擬授業は、大学の教職課程における教科教育法の授業で主に行われることを考えると、教育実習の事前学習の一部となり、保健の授業力を高めるための機会である。保健の模擬授業の効果について、これまでいくつかの報告がある¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。全国の大学の保健科教育法のシラバス調査によると、対象の約半数で模擬授業実践が計画されていた実態が示されている⁵⁾。また、保健体育教員の免許取得を目指す学生からは保健の模擬授業を実施したいというニーズがあることも報告されている⁶⁾。

大学における保健の模擬授業では、学生が教師役と生徒役となる。模擬授業で教師役となる学生にとっては、自己評価とともに、生徒役の学生の評価やコメントといった授業評価が授業改善の手掛かりとなる。

保健の授業評価を実施する方法として、植田が小学生向け⁷⁾、七木田が中学生向け⁸⁾の授業評価票をそれぞれ開発している。先行研究や関連研究の成果、数多くの保健授業を観察した知見から仮説的に評価項目を設定し、様々な内容や形態の保健授業後に調査を行って調査票を完成させている。さらには、「よい授業であったか」、「よい勉強を

したか」、という質問との関連も確認された評価票である。簡便な評価票であり、授業者が即時的にフィードバックを得ることに適している。ただし、大学生の保健模擬授業で使用する場合は、知識・理解に関わる項目が低い評価となるために注意が必要であるとされている⁹⁾。

授業評価と授業の関係について、体育科教育の分野では、教師行動の観察¹⁰⁾¹¹⁾、形成的授業評価票の開発¹²⁾、授業評価に影響を与える要因¹³⁾などの研究が行われている。教師行動では、「マネージメント」「直接的指導」「巡視」「相互作用」が4大教師行動として観察から抽出されており、体育授業において、相互作用の質と量が授業評価と関係することが明らかとなっている¹¹⁾。

保健において、体育科教育の研究成果を応用する際には、実技科目か否かということを考える必要がある。体育で重要であった学習従事やオフタスク(=学習に従事していない時間)が、活動的な学習場面を除いては保健では見えにくいいためである。しかしながら、「マネージメント」「巡視」「相互作用」といった教師行動の視点は、保健の授業評価を高めるために有効である可能性が高い。

以上を踏まえて、本研究では、大学生による保健の模擬授業を分析対象として、生徒役である学生が保健の授業を評価する際の視点を探索的に調

1) 新潟医療福祉大学、2) 順天堂大学
3) 横浜国立大学、4) 聖心女子大学

査し、よい授業と関連する要因を明らかにすることを目的とした。

II 方法

1 調査対象

保健の模擬授業の教師役、生徒役とも教育実習を経験していない大学3・4年生とした。A大学のスポーツ系学科の教科教育法の授業科目である「保健科教育法」において、保健の模擬授業が実施された際に、担当教員の協力を得てデータの提供を受けた。受講者の学生の一人が授業者として保健の模擬授業を10分間行い、他の学生が生徒役としてこの模擬授業を受けた。その後、生徒役は、模擬授業の感想の記述と授業の評価を行っており、この記述と評価を調査データとした。

2 調査内容

模擬授業の感想の記述では、先行研究¹⁴⁾¹⁵⁾を参考に、〈対象／属性／評価〉という3つの組で定義された一文による回答を求めた。対象とは授業において生徒役が記述した対象や現象の全般、属性とは対象のある側面を表す表現、評価とはその属性についての値や記述者の心的な態度を表す表現を指す。これらのなかで、本研究では「対象」について分類を行った。

また、授業評価として、5点満点で5を最高とした5段階の評定を求めた。

3 調査対象数

実施した模擬授業の数は22であった。模擬授業の実施が複数日にまたがっていたため、すべての回に参加した者だけを分析の対象としたところ、調査対象者は57名であった。このうち、回答に明らかな不備があったものを除いた958件を分析の対象とした。

4 調査期間

2013年6月から7月であった。

5 分類方法

自由記述のなかで、「対象」を単語レベルでデータ入力し、教師の直接的な行動を指す「教師行動」とそれ以外の「教師行動以外」に分類(=大分類)した。その後、記述された内容の意味から、さらに分類(=中分類)を行った。以上のように本研究では、生徒役の学生が「よい授業」と判定する要因が明確となるように大きく2群に分類して検討することとした。

III 結果

1 分類について

直接的な教師行動か否かによって「教師行動」か「教師行動以外」かに分類を行った後、教師行動の中分類として「声や話し方」、「板書」、「机間指導」、「態度」、「コミュニケーション」、「説明」の6つに分類した。また、教師行動以外は「授業進行」、「授業内容」、「導入」、「その他」の4つに分類した。

2 授業評価について

5段階で求めた授業評価の平均値は4.03(標準偏差0.78)であった。平均値を基準として、平均値以上と平均値未満の2群に分類した。平均値以上であり5段階で5と評価された授業をよい授業群(n=287)、平均値未満であり5段階で5以外と評価された授業をその他群(n=671)とした。

3 分類ごとの出現割合について

分析の対象記述は計958件であり、教師行動が709(74.0%)、教師行動以外が249(26.0%)であった(表1)。続いて、よい授業群とその他群を見ると、よい授業群の教師行動は187(65.2%)であり、その他群の教師行動は522(77.8%)で

表1 大分類における項目の割合

大分類	n	%
教師行動	709	74.0
教師行動以外	249	26.0

表2 大分類における項目の割合

大分類	よい授業群 (n=287)	%	その他群 (n=671)	%	p値*
教師行動 (n=709)	187	65.2	522	77.8	< 0.001
教師行動以外 (n=249)	100	34.8	149	22.2	

* p値はフィッシャーの直接確率検定

表3 中分類における項目の割合

大分類	中分類	n	%
教師行動 (n=709)	板書	240	33.9
	声や話し方	239	33.7
	態度や様子	139	19.6
	コミュニケーション	41	5.8
	机間指導	35	4.9
	説明	15	2.1
教師行動以外 (n=249)	授業内容	78	31.3
	授業進行	71	28.5
	導入	62	24.9
	その他	38	15.3

あった ($p < 0.001$) (表2)。

中分類における項目でもっとも高い割合であったのは、黒板の文字、板書、字などが含まれている板書で240 (33.9%) であった (表3)。声、話し方、口調などが含まれる声や話し方は239

(34.4%)、先生の様子、先生の態度、先生のしぐさなどが含まれる態度や様子では135 (19.6%)、生徒との関わり、生徒とのやりとりなどが含まれるコミュニケーションが41 (5.9%)、机間指導が35 (4.9%)、説明が15 (2.1%) であった。

教師行動以外では、発問、質問の内容などが含まれている授業内容が78 (31.3%)、授業の進め方、授業展開などが含まれている授業進行が71 (28.5%)、導入が62 (24.9%)、その他が38 (15.3%) であった。その他には、すべて、前時の復習をしたこと、授業の準備などが含まれていた。

中分類におけるよい授業群とその他群の比較において、割合の差が有意であったものは、教師行動に含まれる板書 (20.2%と27.1%、 $p=0.03$) と教師の声や話し方 (20.2%と27.0%、 $p=0.03$) であった。また、教師行動以外に含まれる授業進行 (13.6% vs. 4.8%、 $p < 0.001$) であった (表4)。

IV 考察

本研究では、生徒役が保健の授業を評価する際の視点を探索的に調査したところ、教師行動に関する記述の割合が高くなっていった。教師行動に分類される内容は、生徒役の目につきやすく、よい場合でもそうでない場合でも評価の対象としやすかった結果であった。本研究の対象とした保健の模擬授業では、実施時間が10分間と短いことや多様な学習方法が展開できなかったことから、直接的な教師行動に注目が集まった可能性が高い。また、先行研究において、「教授行為」は模擬授業で省察されやすい視点であることが示唆されている¹⁶⁾¹⁷⁾。さらに、模擬授業の経過とともに、具体的な指導方法から他の項目に意識の広がりがあることも報告されている¹⁷⁾。模擬授業の初歩的な段階では、授業者、生徒役ともに共通した視点であるといえよう。

教師行動の中で高い割合を占めていた板書

表4 中分類におけるよい授業群とその他群との比較

大分類	中分類	よい授業群 (n=287)	%	その他群 (n=671)	%	p 値*
教師行動 (n=709)	板書 (n=240)	58	20.2	182	27.1	0.03
	声や話し方 (n=239)	58	20.2	181	27.0	0.03
	態度 (n=139)	47	16.4	92	13.7	0.32
	コミュニケーション (n=41)	12	4.2	29	4.3	1.00
	机間指導 (n=35)	6	2.1	29	4.3	0.13
	説明 (n=15)	6	2.1	9	1.3	0.40
	教師行動以外 (n=249)	授業進行 (n=71)	39	13.6	32	4.8
授業内容 (n=78)		28	9.8	50	7.5	0.25
導入 (n=62)		18	6.3	44	6.6	1.00
その他 (n=38)		15	5.2	23	3.7	0.27

* p 値はフィッシャーの直接確率検定

(34.6%)と教師の声や話し方(34.4%)は、授業を構成する要素でもっとも目につきやすいものである¹⁸⁾¹⁹⁾。よい授業群とその他群を比較すると、板書と教師の声や話し方のいずれもが、その他群で高い出現割合となっていた。(p=0.03)。

板書については、対象とした模擬授業のなかで、掲示物で代替とした例や板書をまったく行わない例があったにもかかわらず高い割合であった。板書された内容は模擬授業後に感想の記述や授業の評価を行うまで残っていたため、判断材料になりやすく多くの記述につながったものと考えられる。板書に関する記述内容では、わかりやすい板書であったことや読みやすい文字であったことなど、板書のそれ自体が記述の対象となっていた。板書した内容自体ではない、例えば「発言がスムーズ

に板書されていた」や「板書のために生徒の発言を止めてしまっていた」などの授業に関わる内容¹⁹⁾にまでは言及されてはいなかった。

声や話し方は、板書と同様に、よい授業での言及の割合が低くなっている。これらのことは、できて当然と見られており、よかった場合には注目されなかったということになる。一方、不十分であった場合に指摘されて高い割合になったものと考えられる。

よい授業群とその他群の比較では、よい授業群は教師行動以外の記述の割合が高く、その他群は教師行動の記述の割合が高いという結果であった。このことは、本研究において特筆すべき点である。教師行動以外は、全体での割合は低かったが、よい授業においては、注目されていたことになる。

一方、その他群では、教師行動が不十分な点の指摘として記述されていたと考えられる。よい評価の場合には、教師行動以外が注目され、そうでない場合には教師行動が注目されていたということになろう。なお、本研究における授業評価の評定の平均値は「4.03」と高い数値であったが、大学生が生徒役の場合には評定が高かったという報告がある²⁰⁾。

体育授業では、観察者によって「マネジメント」「直接的指導」「巡視」「相互作用」が4大教師行動として抽出されている¹¹⁾。本研究では、生徒役の記述をもとにしている点で異なるが、本研究の結果からは、巡視、相互作用に該当する内容が得られている。マネジメントに関しては、授業進行、授業内容などに該当すると考えられる。

本研究では、教師行動のうちのコミュニケーションが相互作用に相当すると考えられる。体育授業においては、相互作用の質と量が授業評価と関係することが明らかとなっている¹¹⁾が、今回は、全体の6%程度であり、よい授業群とその他群とで割合に有意な差はみられなかった。本研究では10分間の模擬授業という制限があったが、授業時間を増やし、生徒との実際の相互作用が増えた場合に、授業評価への影響が現れる可能性があるだろう。一方で、体育の授業中に教師の言葉かけを受けとった子どもの割合が約40%または約60%だったというデータが示されている²¹⁾²²⁾。保健の授業でも、生徒への言葉かけの実態、さらには言葉かけなどの相互作用と授業評価との関連を検討する必要があるだろう。

本研究では、教育実習を経験する前で中学生や高校生に比較的近いと考えられる大学生を生徒役として、授業で注目される視点(対象)と授業評価に関連する要因を探索的に調査した。その結果、板書、声や話し方といった教師の直接的な行動に注目されている割合が高いことが明らかとなった。また、授業の評価との関係では、よい授業では直接的な教師行動に着目している割合が低く、よい

授業以外では直接的な教師行動に着目している割合が高くなっていた(65.2%と77.8%、 $p<0.001$)。これを具体的な内容でみると、板書、声や話し方の割合がよい授業群で低くなっていた(それぞれ $p=0.03$)。模擬授業や教育実習においては、板書、声や話し方といった直接的な行動をスムーズに行った上で、授業進行のような直接的ではないことに注目がいく授業レベルを目指すことが必要であることが改めて示唆された。

近年の保健の授業評価に関する研究では、七木田の評価票を高校生に適用した研究²³⁾や教師行動も含めた保健授業評価尺度の開発²⁴⁾²⁵⁾などが発表されている。これらの成果を保健の模擬授業でも導入し、実施形態や観察者の導入などの工夫²⁶⁾²⁷⁾によって、検討を重ねていくことも必要であろう。

保健授業においては、その授業の目標や内容の質あるいは妥当性が重要であり、模擬授業の指導では、教師行動だけでなく、これらの重要性に学生が気付き、またそれらを検討することを忘れてはならない。

VI 文献

- 1) 長田光司, 友川幸: 保健学習の指導力向上のための模擬授業の効果と課題～省察の変容に着目して～. 学校保健研究58: 33-38, 2016.
- 2) 宮坂雄悟, 中川麻衣子: 教員養成段階における保健体育科「保健分野」の授業力の形成に関する一考察 —授業観察における視点の変化に着目して—. 川崎医療福祉学会誌25, 159-164, 2015.
- 3) 高井聰美: 保健教育(保健学習)における模擬授業の効果. 関西女子短期大学紀要20: 23-28, 2010.
- 4) 斉藤雅記: 保健科模擬授業による省察能力の変化. 徳山大学論叢70: 137-145. 2010.
- 5) 物部博文, 杉崎弘周, 植田誠治: 保健体育科教員養成における保健科教育法に関する実態調査—インターネット公開のシラバス内容の検討—. 横浜国立大学教育人間科学部紀要I 教育科学

- 18：128-138, 2016.
- 6) 杉崎弘周, 物部博文, 植田誠治：保健体育の教員養成のための教職実践演習における「保健」の実施状況：4年制大学を対象とした全国調査の結果に基づいて. 体育学研究61：281-288, 2016.
- 7) 植田誠治：小学校保健授業の教授—学習過程評価票の開発. 学校保健研究40：75-81, 1998.
- 8) 七木田文彦：保健授業評価票作成の試み—中学生の授業評価構造に着目して—. 学校保健研究44：47-55, 2002.
- 9) 杉崎弘周：保健の教育評価. 中学校・高等学校保健科教育法, 74-85, 東洋館出版社, 2016.
- 10) 高橋健夫, 岡沢祥訓, 中井隆司：教師の「相互作用」行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について. 体育学研究34：191-200, 1989.
- 11) 高橋健夫, 岡沢祥訓, 中井隆司ら：体育授業における教師行動に関する研究—教師行動の構造と児童の授業評価との関係—. 体育学研究36：193-208, 1991.
- 12) 高橋健夫, 長谷川悦示, 刈谷三郎：体育授業の「形成的評価票」作成の試み：子どもの授業評価の構造に着目して. 体育学研究39：29-37, 1994.
- 13) 福ヶ迫善彦, ストロ, 小松崎敏ら：体育授業における「授業の勢い」に関する検討：小学校体育授業における学習従事と形成的授業評価との関係を中心に. 体育学研究48：281-297, 2003.
- 14) 小林のぞみ, 乾健太郎, 松本裕治ら：意見抽出のための評価表現の収集. 自然言語処理12：203-222, 2005.
- 15) 松村真宏：テキストマイニングの応用事例. 人文・社会科学のためのテキストマイニング, 95-123, 誠信書房, 2009.
- 16) 日野克博, 谷本雄一：大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造. 愛媛大学教育学部保健体育紀要6：41-47, 2009.
- 17) 徳永隆治：模擬授業による体育授業づくりの意識形成に関する事例的研究. 安田女子大学紀要37：197-207, 2009.
- 18) 藤原昌太：保健の学習指導の実際. 中学校・高等学校保健科教育法, 120-129, 東洋館出版社, 2016.
- 19) 助友裕子：保健の模擬授業をやってみよう①（習得型を中心に）. 中学校・高等学校保健科教育法, 156-165, 東洋館出版社, 2016.
- 20) 木山慶子：教員養成における模擬授業の学習成果の検討—学生による授業分析を用いた省察から—. 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編51：83-93, 2016.
- 21) 深見英一郎, 高橋健夫, 日野克博ら：体育授業における有効なフィードバック行動に関する検討：特に, 子どもの受けとめかたや授業評価との関係を中心に. 体育学研究42：167-179, 1997.
- 22) 深見英一郎, 高橋健夫：器械運動における有効な教師のフィードバックの検討—学習行動に応じたフィードバックと子どもの受けとめかたとの関係を通して—. スポーツ教育学研究23：95-112, 2003.
- 23) 藤原昌太：保健授業における形成的授業評価の検討. 日本教育保健学会年報23：45-49, 2015.
- 24) 長島健二郎, 徐広孝, 藤原昌太ら：項目反応理論を用いた保健授業尺度の開発～尺度の信頼性・妥当性の検討～. 保健科教育研究1 Suppl.：16, 2016.
- 25) 岡崎勝博, 長島健二郎, 加藤勇之助ら：項目反応理論を用いた保健授業尺度の信頼性と妥当性. 保健科教育研究1 Suppl.：17, 2016.
- 26) 家田重晴：改訂 保健科教育法, 151-154, 杏林書院, 2000.
- 27) 小松崎敏：模擬授業の意義と効果的な進め方. 新版 体育科教育学入門, 263-271, 大修館書店, 2010.